

鉄道労連から鉄労が脱退 7/1

絶好のチャンスを生かしまり総決起しよう！



87. 7. 4
No. 2593

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

第12回支部代表者会議開催(7/2)

動労千葉は、七月二日、第十二回支部代表者会議を開催し、鉄道労連分裂を中心とする情勢、「小集団」を軸とする強権的労務政策との闘い、そして、出向攻撃にはストライキも辞さず闘う方針を改めて意志統一し、当面、「7・5団結地引き綱大会」、七月十一日の労働学校、七月十八日の臨時委員会を全組合員・家族の大結集で大成功をかちとることを確認した。

呉越同舟の鉄労・鉄産労

鉄労が鉄道労連を脱退するという決定的段階を迎え、国鉄をめぐる情勢が極めて重大な時期に突入した。すなわち、七月一日、鉄労は、鉄道労連を脱退し、鉄産労との間で統一を図ると発表した。鉄労とは伝統的な第二組合であり、資本のバックアップなしには組織がもたないという性格を持っている。一方、鉄産労は、国労から脱退したものの組織としては三万人にとどまっており、第一組合として当局の関心を向けさせるために鉄労と協議会を作ることにもふみきったのである。鉄産労は六月に総評に加盟し、鉄労はもともと同盟であり、性格が全く違う鉄労と鉄産労との呉越同舟は、遠からず破産することは明白である。

鉄労との結着を求めた松崎

他方、動労革マルが八月に鉄道労連発足を強行したにせよ、社員労、日鉄労とは所詮野合にすぎず、結局は先細りし分裂は必至である。これは、中曽根の目論んだ「分割・民営化体制」が、大破綻をきたしたということだ。「分割・民営化」攻撃とは、動労革マルや鉄労を手先にして国鉄労働運動を解体することが唯一の狙いであったが、鉄道労連分裂という動かしがたい事実として動労千葉が主張してきたことが、今や誰の目にも

当面のスケジュール

7/5 団結地引き綱大会
九十九里・一松海岸、9時集合

11 労働学校 労働者福祉センター 10時？

12 囲碁・将棋大会 本部、9時30分集合

18 臨時委員会 県教育会館、10時？

もわかるようになってきている。

ここで注意しなければならないのは、動労革マル松崎の狙いである。

つまり、革マル松崎は、鉄労に追い詰められてやむを得ず今回の盛岡地連や鉄労批判のような行動をとったのではなく、むしろ鉄労との「決着」を求めて目的意識的に行った行動であるというところだ。

われわれは、「分裂」に又カ喜びするだけでなく、このチャンスを生かしまり、闘いを前進させていかなければならない。

臨時委員会で闘う方針確立へ

もうひとつは、東日本において極めて強権的な労務政策が組合を無視して行われていることである。

出向についても、神奈川の地労委が「凍結」の勧告を出しているにもかかわらず、これを無視して業務命令で出向を強行している。

しかし、地労委の勧告にもかかわらず、国労は何も闘わず、出向に出してしまっている。

また、組合事務所は六〇〇名に一箇所、組合のピラは持ちこたえるなど職場から組合活動を一掃しようとしている。

これに対してわれわれは、今起きている絶好のチャンスに完全に生かしまり、この夏から秋にかけて総決起していくことが求められている。

当面、七月十一日の労働学校で、全造船石川島分会委員長・佐藤芳夫氏の講演の中から民間ではどういふ闘いがあるのかをつかんでいこう。

さらに十八日に、臨時委員会を開催する。出向攻撃にはストライキも辞さず闘うことを全組合員で意志統一をはかっていく。

また、夏季手当の差別支払いに対しても全組合員が補うことを今臨時委員会で決定していくこととする。

同時に、カナメ商事、物販、共同購入の事業部運動を強化する。とりわけ、物販を全力で取り組むこととする。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！